

シリーズ(その⑥)

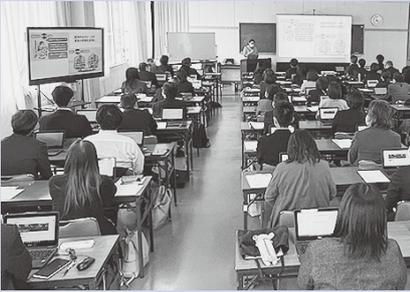
## トライシティー TRY ICT やすぎ

ICT(情報通信技術)を活用した教育で学校や教室が変わる様子をシリーズでお伝えしています。

### ICT活用の指導力向上 を目指して

新年度が始まった4月5日、新規採用者を含め安来市に転入してきた教職員72人のICT活用研修を実施しました。各学校の児童生徒、ひとり一台のタブレット端末を活用した授業づくりを積極的にするための研修です。

安来市が採用したタブレット端末で利用するGoogleのシステムは、全国では40%以上の小中学校が採用しています。しかし、県



▲転入教職員のICT活用研修の様子。

内の市町村はそれぞれ採用しているシステムが異なるため、転入してきた教職員は、ほぼ全員が授業で使用するのは初めてのシステムになります。

学校教育課では、昨年度、各学校単位でタブレット端末を活用した授業づくりの研修や、夏休み期間中に受講希望者を集めた研修会を実施し、延べ300人を超える教職員を対象に研修を進めてきました。あわせて、教職員向けのホームページを開設し、市内学校の活用事例の情報や、自作のYouTube動画を作成・公開し、授業場面でのアプリ使用のコツ等、教職員が主体的に理解を深められる支援を行っています。

学校に本格的に導入されて2年目となる今年度。タブレット端末が確実に教育現場で活用され、授業の質が向上していくためにも教職員への効果的な研修等、持続的な活用に向けた取り組みが、今後も重要であると考えています。

#### 問い合わせ

学校教育課 ☎23・3180

## 日本遺産を 巡るたたら の音色 日本遺産の 構成文化財 連載④



今月号は、「奥出雲たたら製鉄および柵田の文化的景観」に関連して、たたら製鉄の原料となる砂鉄の採取方法とその跡地の利用について紹介します。

### なぜ柵田ができたのか そのヒミツとは?

良質な砂鉄は奥出雲町、安来市南部、雲南市などの標高が高い場所で見られます。採取方法として考えられたのが鉄穴流しです。

山の上に池をつくり雪解け水などを溜めて下流までつながらる水路(井出)を引き、水の流れを作ります。その後、道具(打鋏)を使い山の斜面を崩した土砂を水流の中に落とし込み、下流へ流します。途中で水を足したり池に溜めたり工夫して、最終的に土砂より重たい砂鉄が溜まっていく方法です。削り取られた跡地は平坦になり、段々に下がっていく、そこを田んぼや畑として利用しました。砂鉄採取跡の柵田の完成です。はじめは、土地は肥えています。そばを植えたり、牛や馬など



▲東比田の柵田の風景(鉄穴流し跡)。

を使い耕しながら、牛糞などをたい肥として使い土地を肥やしてきました。

そこで育つお米は、標高が高く朝夕の寒暖差や、ミネラル豊富な雪解け水や湧き水によっておいしくなります。

米どころの西の横綱として仁多米が有名ですが、仁多米に引けを取らない安来市南部の比田米など山間部のお米を食べ比べてみてはいかがでしょう。

そして、柵田の原風景を見に足を運んでみませんか。

#### 問い合わせ

和鋼博物館 ☎23・2500

